

米粉用米・米粉に係るアンケートの結果について

平成26年11月

農林水産省

< アンケート調査の趣旨及び概要 >

趣 旨

- パンなどの新用途向けの米粉用米に関しては、平成21年に「米穀の新用途への利用の促進に関する法律」が制定され、同法に基づく基本方針を策定し支援施策を講じる等しながら、生産・利用を推進してきたところ。
- 今般、同法の施行から5年が経過し、次期の基本方針策定の時期を迎えている等、制度について、所要の検討を行う必要があるため、米粉用米・米粉の現状や課題等に関して現場アンケートを行った。

概 要

- 同法では、新用途米穀の生産者とその利用者(米粉製造事業者・飼料製造事業者等)が、3～5年の計画で新用途米穀の生産、利用を順次拡大していく計画(生産製造連携事業計画)を作成し大臣認定を受ける制度を設けており、国は、この認定を受けた事業について、当該新用途米穀の集出荷施設・加工施設の整備等に関し、補助・融資等により支援している。
- ここまで、米粉用米・米粉の生産製造連携事業計画は51件が認定されており、アンケートは、この認定を受けて米粉用米の生産に取り組んでいる又は取り組んだ生産者40名(※1)、米粉製造事業者43名、促進事業者(米粉食品製造販売事業者)32名に郵送で質問票を送付。(※2)
- 回答状況は下記のとおり。

(※1)生産組織の代表者を含むため、実耕作生産者数ではない。

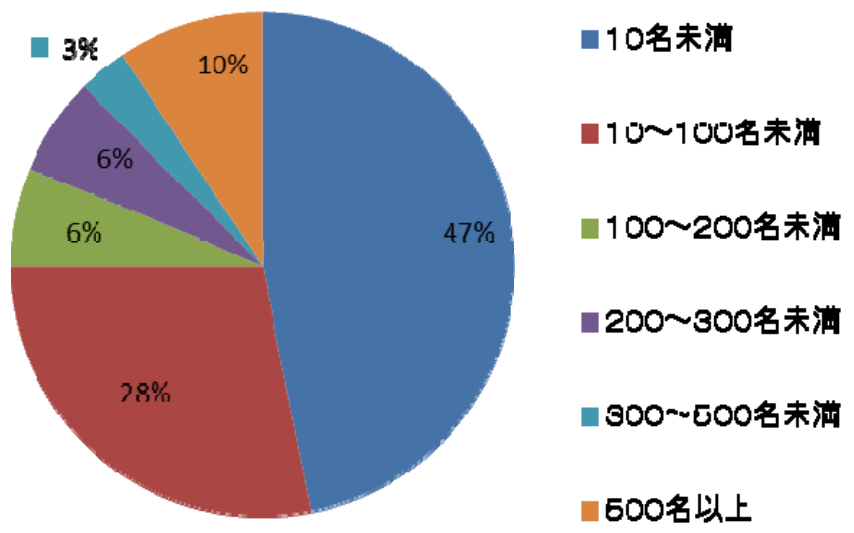
(※2)複数の事業計画を持つ事業者がいる等のため、事業計画件数と送付数は異なる。

| | 【有効回答件数】 | 【発送件数】 |
|--------------|----------|-------------------|
| ・生産者 | 32 | 40 |
| ・米粉製造事業者 | 39 | 43 |
| ・米粉食品製造販売事業者 | 24 | 32 |
| 計 | 95 | 115 (有効回答率 82.6%) |

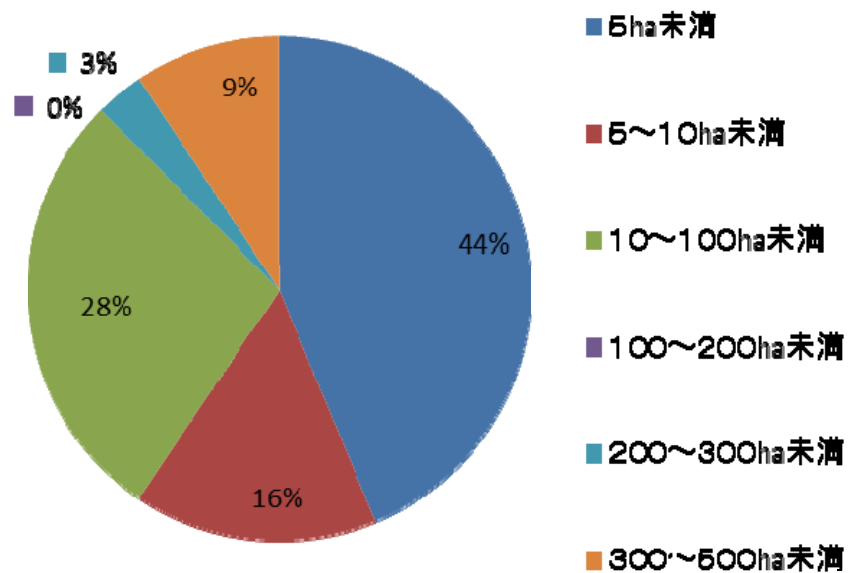
< 回答者の生産製造連携事業の状況 ① > (生産者)

- 生産製造連携事業による米粉用米の生産は複数の生産者で取り組まれているものが概ねである。
- 回答があった生産者(個人又は生産組織等の代表者)の生産製造連携事業における直近年産(※計画期間が経過した取組にあっては計画最終年産)の米粉用米実耕作生産者数は、10名未満が47%、10名以上100名未満が28%を占めている。
- また、直近年産又は計画最終年産の取組面積は、5ha未満の割合が44%を占めている。
- このように小規模なものが多いのは、米粉用米生産製造連携事業が「地域型」中心であることに加え、平成25年度末までに認定計画期間を了した事業の計画達成率(米粉製造計画数量の合計に対する実製造数量の合計の割合)は5割であり、米粉需要が想定した程に拡大していないといった状況にあることも影響しているものと思われる。

回答があった認定生産製造連携事業における実耕作生産者数



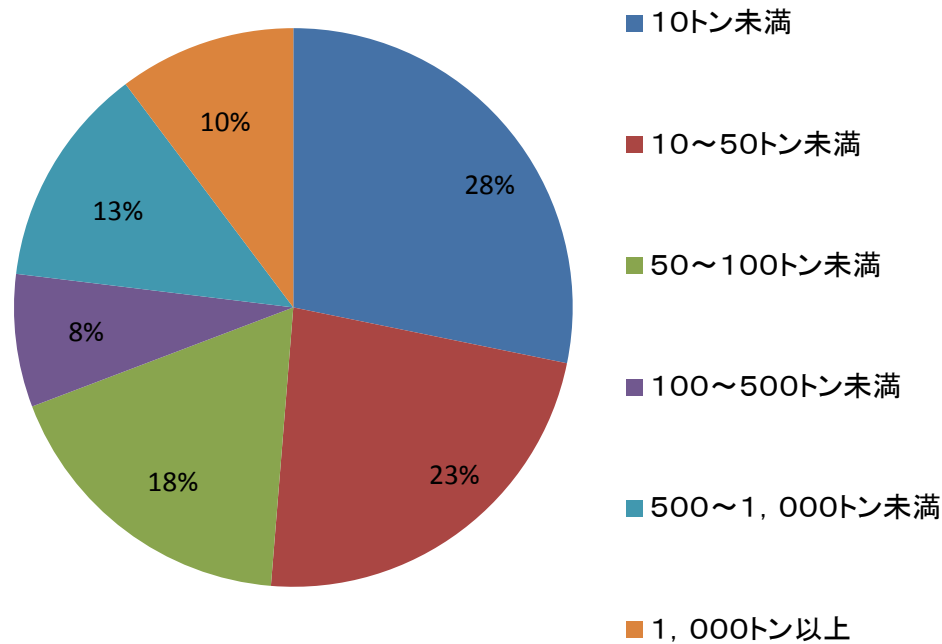
回答があった認定生産製造連携事業における直近の取組面積



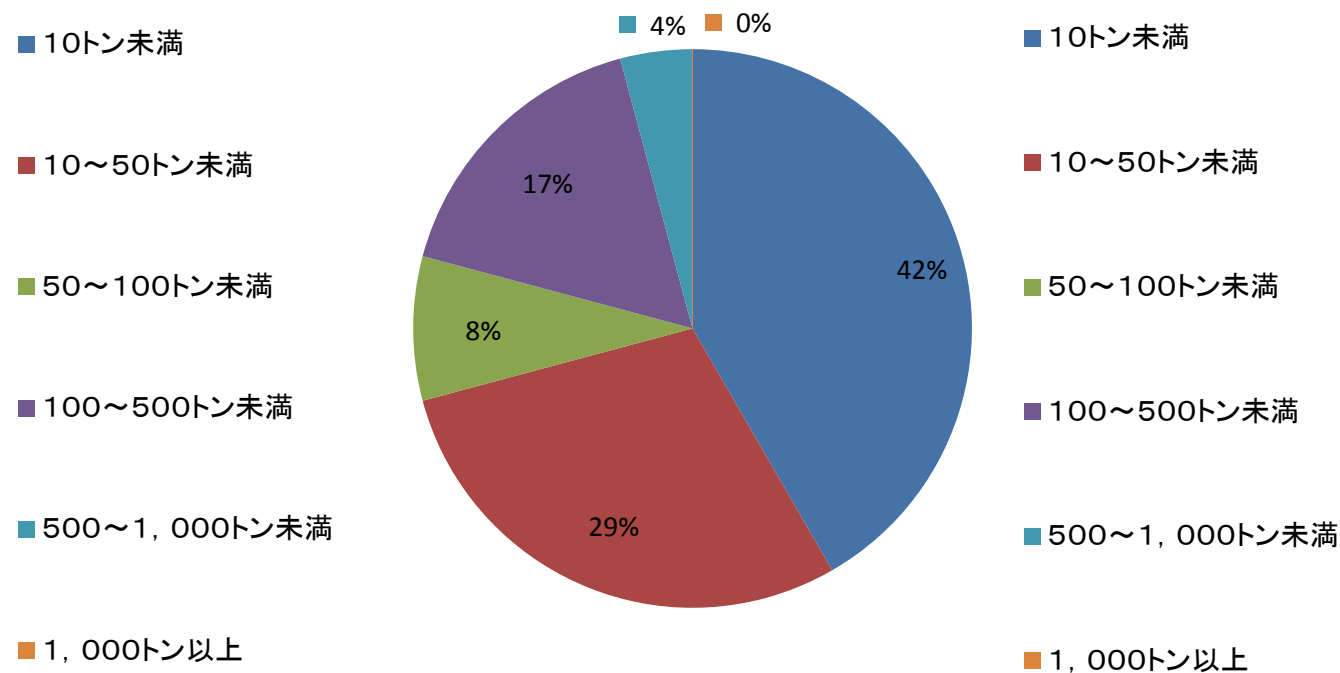
< 回答者の生産製造連携事業の状況 ② > (米粉製造事業者、促進事業者)

- 回答があった米粉製造事業者・促進事業者の生産製造連携事業における直近年度又は計画最終年度の米粉用米・米粉の使用数量をみると、年間100トン未満の事業者が、米粉製造事業者では7割、促進事業者では8割を占めている。
- 特に、促進事業者にあつては、50トン未満の者が7割を占めており、地域型等、米粉事業自体小規模なものが多いことに加え、需要増加率が鈍化しているといった現状の影響もあるものと思われる。

回答があった認定生産製造連携事業における
米粉製粉事業者の直近の米粉用米使用数



回答があった認定生産製造連携事業における
促進事業者の直近の米粉使用数量



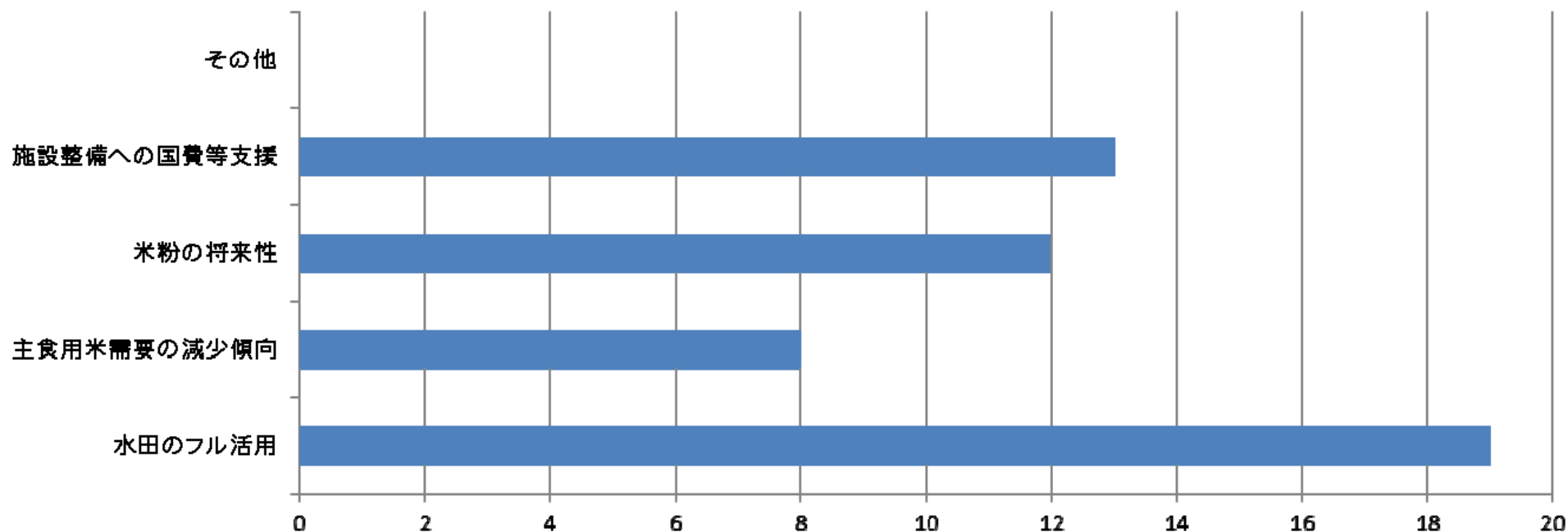
生産製造連携事業制度を活用した理由（生産者）

- 水田フル活用を挙げる者が最も多く、次いで施設整備への国費等支援・米粉の将来性がほぼ同数。
- 米の全体需給を踏まえ判断した者は比較的少ない。
- なお、米粉用米実耕作生産者100名以上で取り組む事業（8事業）における当該生産組織の代表者にあっては、水田フル活用を挙げる者が8割強、米の全体需要を挙げる者が5割となっている。

【問－1】 生産製造連携事業制度を活用して米粉用米の生産、米粉事業を行おうと考えた理由をお聞かせください。（複数回答可）

【生産者】

【有効回答者数： 32】



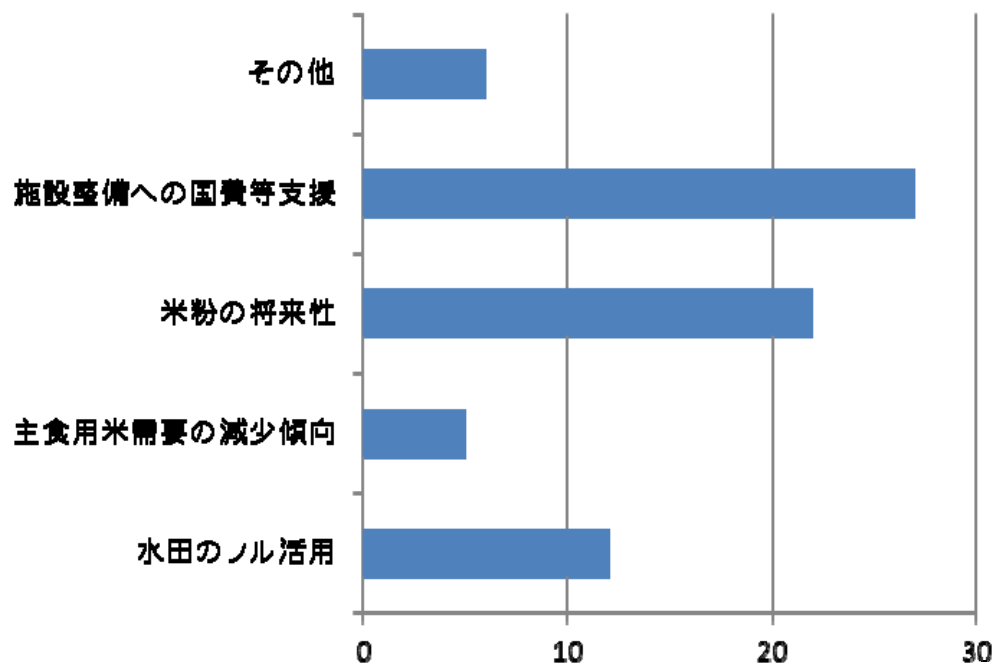
生産製造連携事業制度を活用した理由（米粉製造事業者、促進事業者）

- 双方とも、**施設整備の国庫等支援**を最も多く挙げており、次いで、同じく双方とも**米粉の将来性**となっている。
- また、「その他」の理由としては、「米粉事業に本格参入するため、製粉から製品化までの設備体制を構築したかった」、「市内学校給食における米粉パン導入の動きを見据えて」、「将来的な小麦粉安定供給への疑問」、「地域農業の活性化・自給率への貢献」、等。

【問－1】 生産製造連携事業制度を活用して米粉用米の生産、米粉事業を行おうと考えた理由をお聞かせください。（複数回答可）

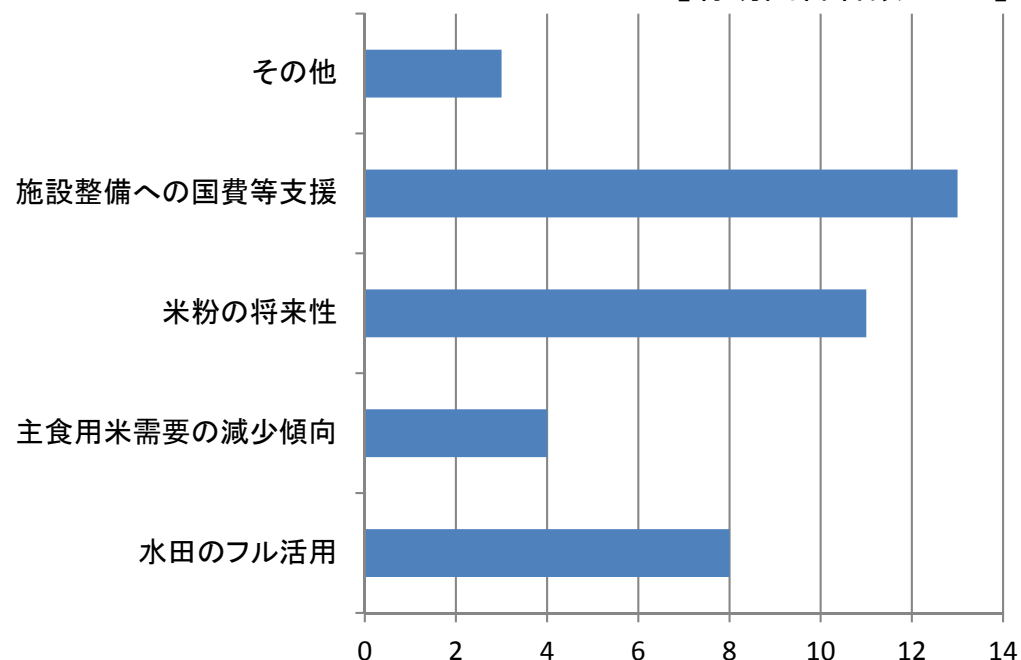
【米粉製造事業者】

【有効回答者数： 39】



【促進事業者】

【有効回答者数： 24】

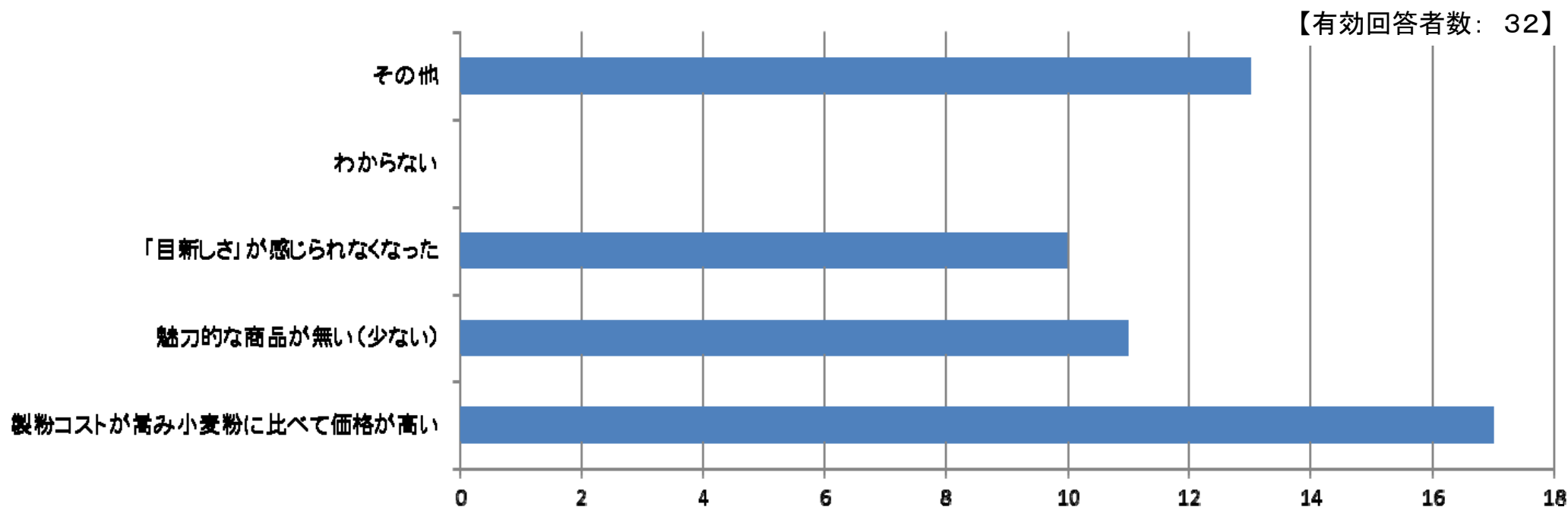


米粉用米の利用の伸びが鈍化傾向にある理由と思うもの（生産者）

- 製粉コストを挙げる者が多い。
- ただし、「その他」の回答も多く、主なものとしては、「業務用でのヒット商品等の大型需要が起こっていないため」、「米粉の魅力・特徴・優位性が業務筋や消費者側に伝わっていないため」、「安価な米粉用米があり価格競争が激しいため」等。

【問－2】 新規需要米である米粉用米の利用は、年々、着実に増加していますが（平成21年度：0.5万トン→平成25年度：2.5万トン）、近年はその伸びが鈍化傾向にあります。鈍化の理由は何であると思いますか。（複数回答可）

【生産者】



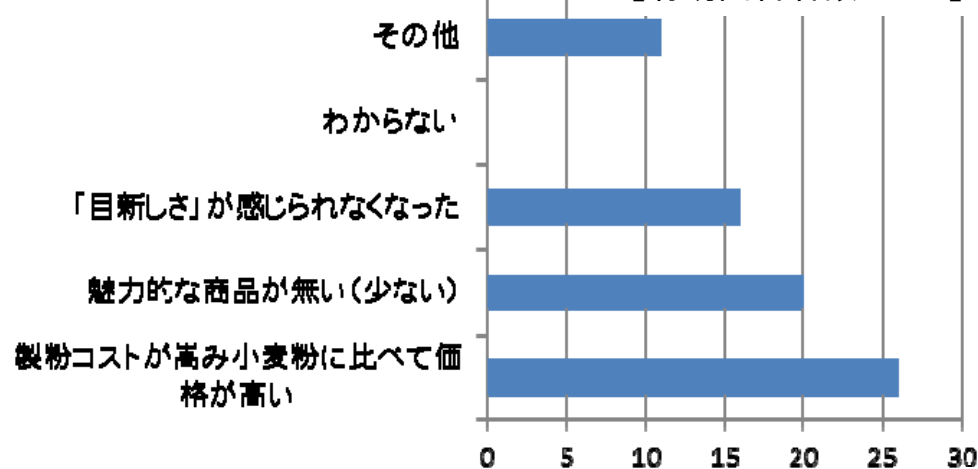
米粉用米の利用の伸びが鈍化傾向にある理由と思うもの（米粉製造事業者、促進事業者）

- 双方とも同様の傾向であり、**製粉コスト**を最も多く挙げているが、**魅力的な商品の乏しさ**、**目新しくなくなったこと**を挙げる者も多い。
- また、「その他」の主なものとしては、「**様々な製粉方法があるのに、全部同じであるような始め方をしたためユーザーが混乱している**」、「**小麦粉の代替では限界**。異質な食材であり、**独自商品の開発**が進んでいない」、「**普段使いの食材として普及していない**」、「**製粉コストが小麦粉より高いことはわかっているのに、原料価格を上げようとする産地側の動きがある**」、等。
- なお、「**多方面で利用は拡大してきている**。食品業界は**テスト等時間がかかる**ものであり、**長い目で考えてほしい**。地道な努力を評価していただきたい」との意見もあった。

【問－2】新規需要米である米粉用米の利用は、年々、着実に増加していますが（平成21年度：0.5万トン→平成25年度：2.5万トン）、近年はその伸びが鈍化傾向にあります。鈍化の理由は何であると思いますか。（複数回答可）

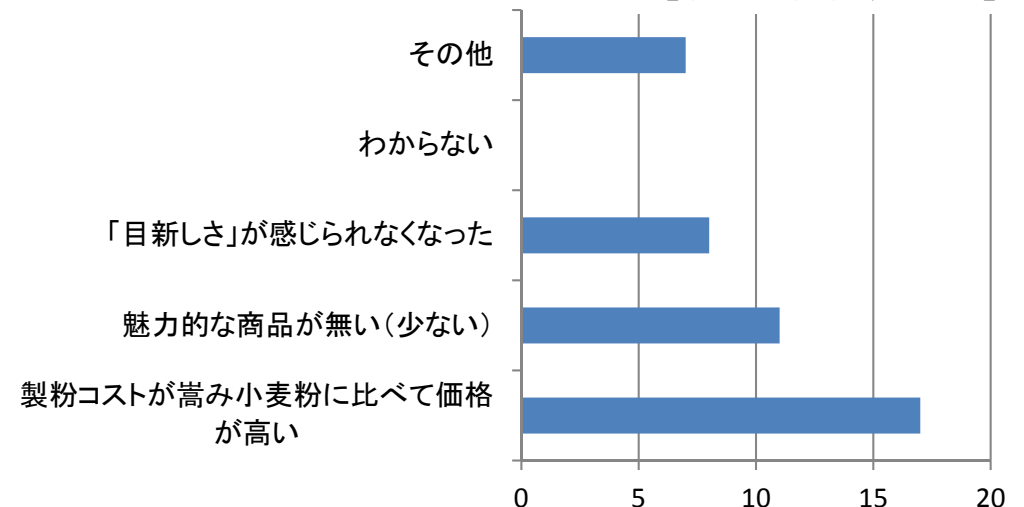
【米粉製造事業者】

【有効回答者数： 39】



【促進事業者】

【有効回答者数： 24】

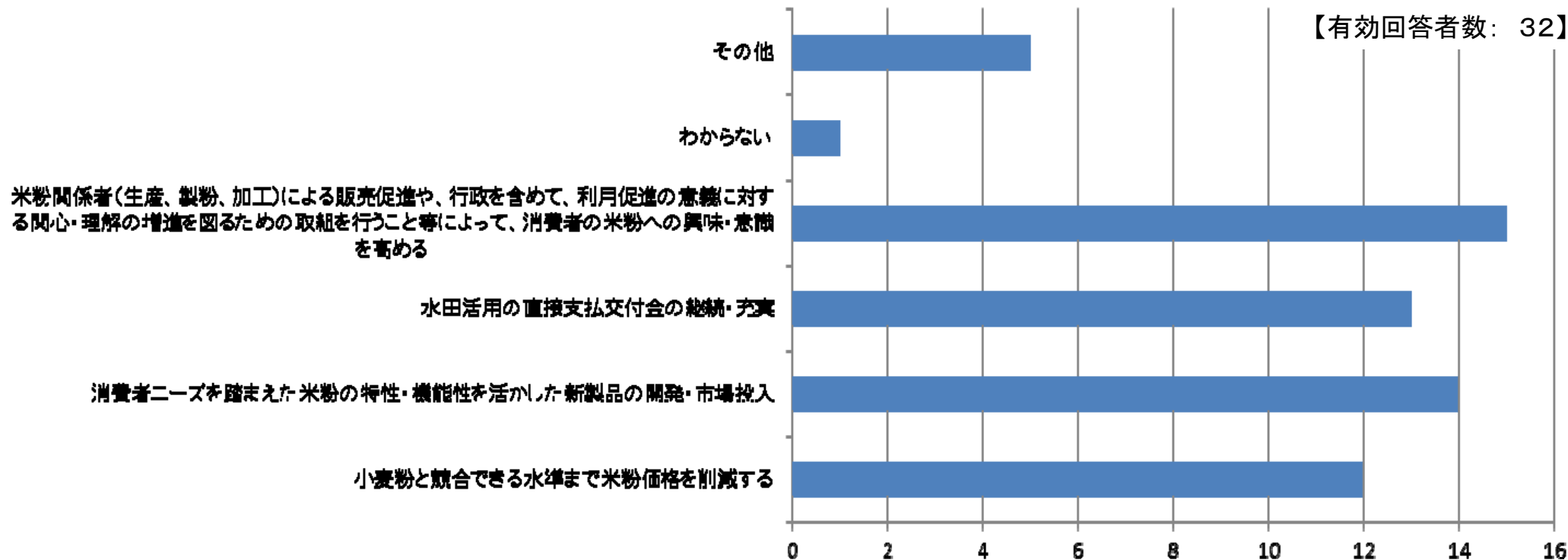


米粉用米利用の拡大に向けて必要と考えるもの（生産者）

- 事業当事者が連携した販売促進、行政・関係者が米粉利用の意義の周知を含め消費拡大に取り組む、米粉の特性・機能性を切り口に市場に訴求といった**消費面の課題克服**を最も多く最も挙げている一方、**生産に対する国庫支援が不可欠**との考えも強い。

【問-3】 米粉用米利用の拡大に向けて、どのようなことが必要と考えますか。（複数回答可）

【生産者】

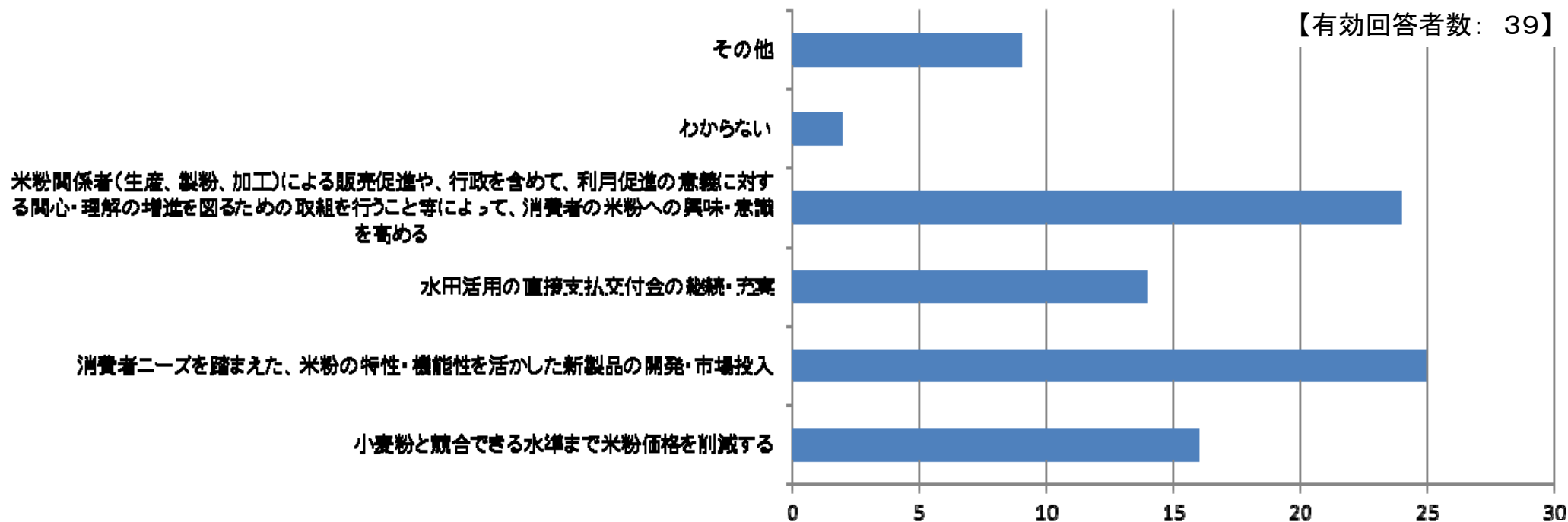


米粉用米利用の拡大に向けて必要と考えるもの（米粉製造事業者）

- 米粉の特性・機能性を切り口に市場に訴求、事業者が連携した販売促進、行政・関係者が米粉利用の意義の周知を含め消費拡大に取り組むとの回答が多く、主に**消費面の課題克服が必要**と考えている。
- 「その他」の主なものとしては、「**保管のリスク**が大きすぎる。**必要な分だけ買えるような仕組み**ができないか」、「米粉を謳わずとも、業務用も含めミックス粉等にじわりと浸透させていくことが必要」、「**米粉の利点のアピール**」、等。

【問-3】 米粉用米利用の拡大に向けて、どのようなことが必要と考えますか。（複数回答可）

【米粉製造事業者】

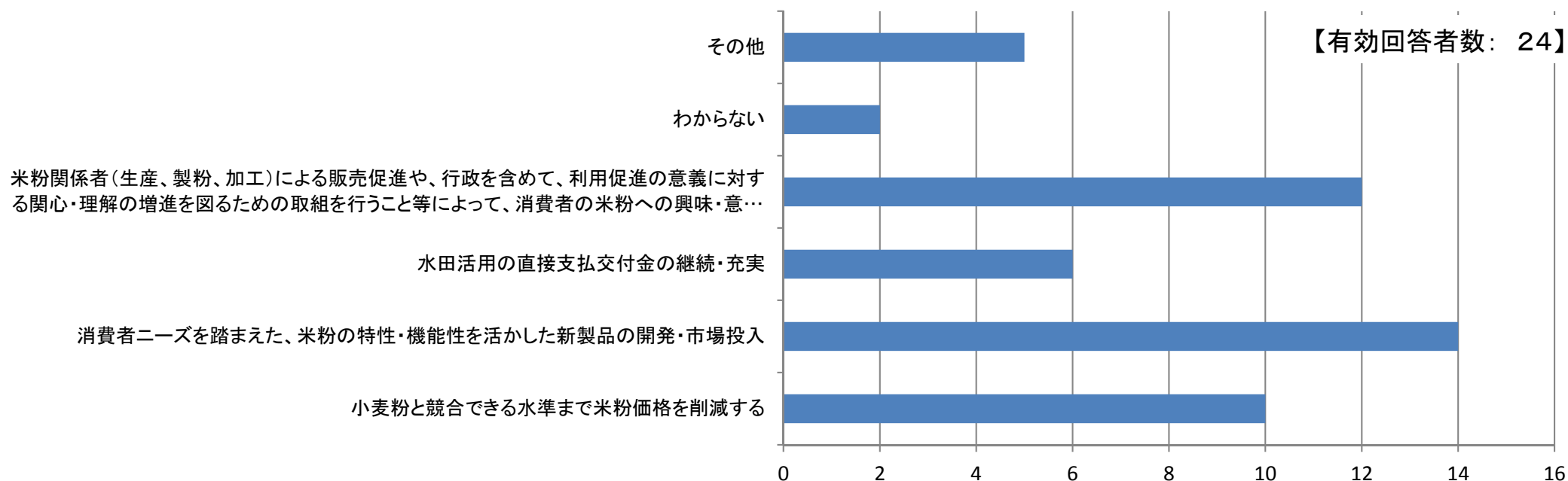


米粉用米利用の拡大に向けて必要と考えるもの（促進事業者）

- 米粉製造事業者と同様、米粉の特性・機能性を切り口に市場に訴求、事業者が連携した販売促進、行政・関係者が米粉利用の意義の周知を含め消費拡大に取り組むとの回答が多く、主に**消費面の課題克服が必要**と考えている。
- また、**製粉コストの低減**を挙げる者も多く、**利用において価格が一つのネックであることを示す結果**となっている。
- なお、「その他」の主なものとしては、「用途（パン、麺、スイーツ、菓子等）別の米の**品種改良が必要**。」「米粉を利用した製品を**公共の施設（県庁の食堂や学校給食など）**で使用する」、「民間の利用に対しての補助金制度」、等。

【問－3】 米粉用米利用の拡大に向けて、どのようなことが必要と考えますか。（複数回答可）

【促進事業者】

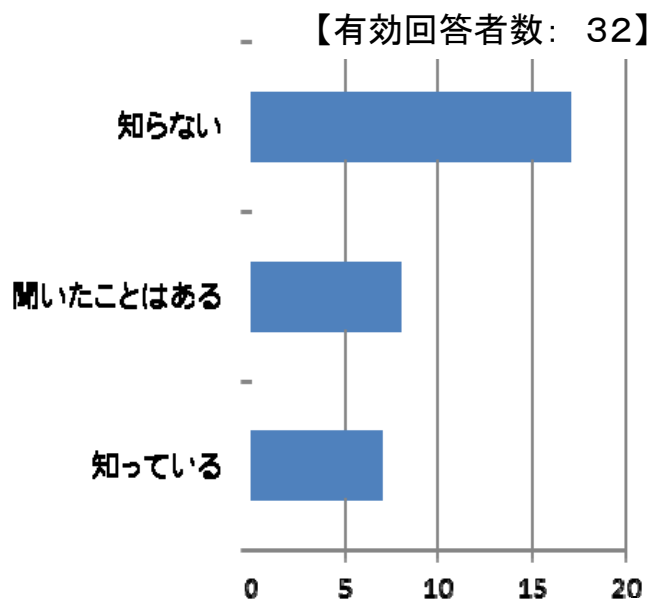


米粉用米利用拡大の課題克服のための国の支援策について①（生産者、米粉製造事業者、促進事業者）

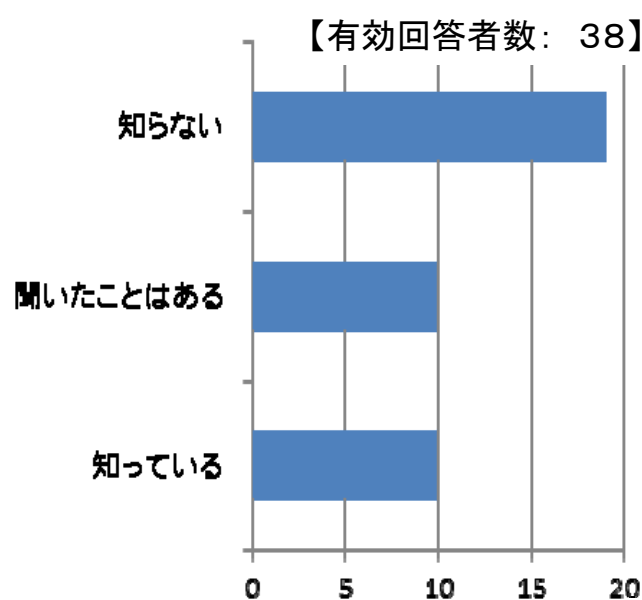
○ 米粉製造事業者、促進事業者についても認知度は5割程度となっている。

【問－4】 総体的に、米粉は、小麦粉に比べ価格が高い状況にあり、国では、小麦粉と競合し得る状況を実現するため、平成25年度から、民間による製粉コスト低減技術の開発を支援しています。また、小麦粉とのミックス粉等の米粉の特性・機能性を活かした新たな米粉製品の市場投入による需要を喚起するため、当該製品の開発も支援しています。これらの支援をご存知ですか。

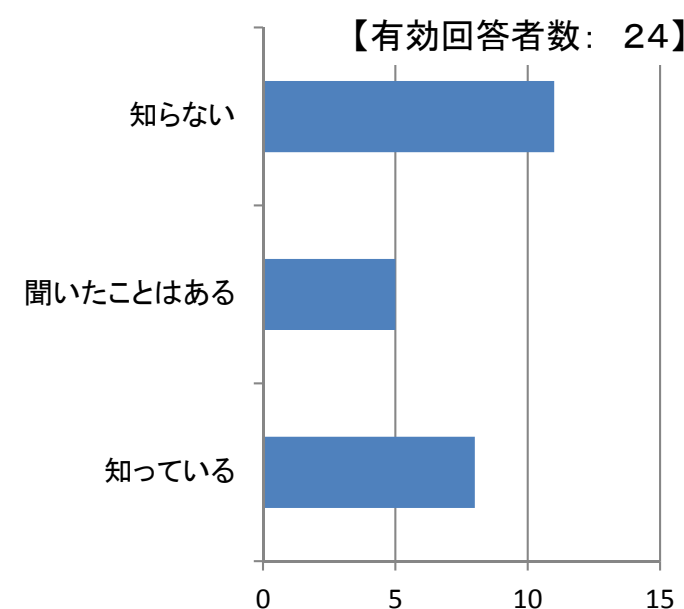
【生産者】



【米粉製造事業者】



【促進事業者】



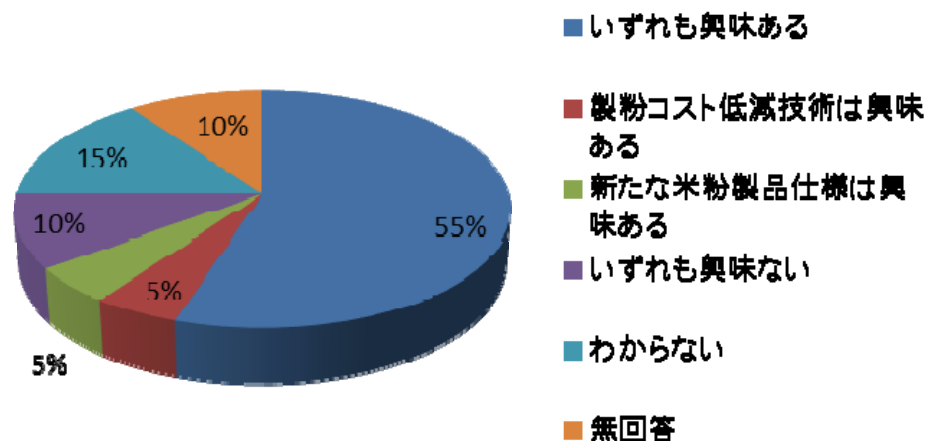
米粉用米利用拡大の課題克服のための国の支援策について②（米粉製造事業者、促進事業者）

○ 知っている又は聞いたことがある米粉製造事業者・促進事業者とも、**技術・製品仕様の双方又はいずれかに興味を持つ者が7割程度**いる。

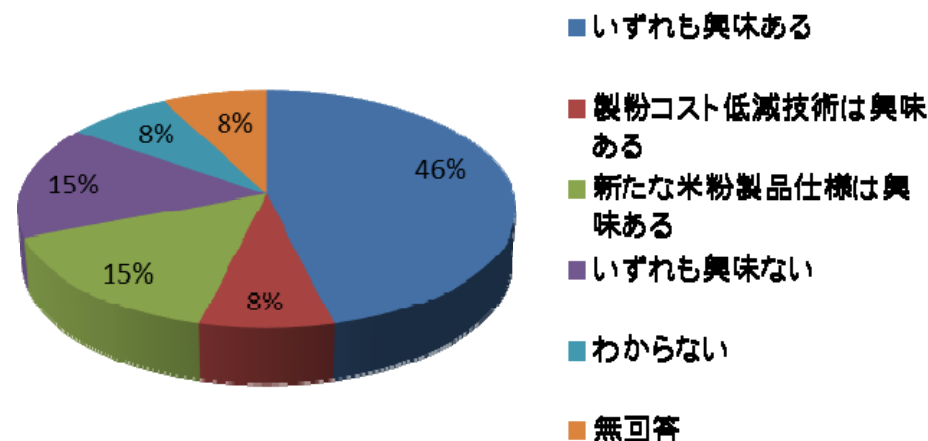
【問－4で「① 知っている」又は「② 聞いたことはある」と回答された製造事業者・促進事業者の方にお聞きします。】

【問－6】 米粉製粉コストの低減技術が確立され、又は、米粉の特性・機能性を活かした新たな米粉製品が開発された場合、それらの技術・製品仕様には興味がありますか。

【米粉製造事業者】



【促進事業者】

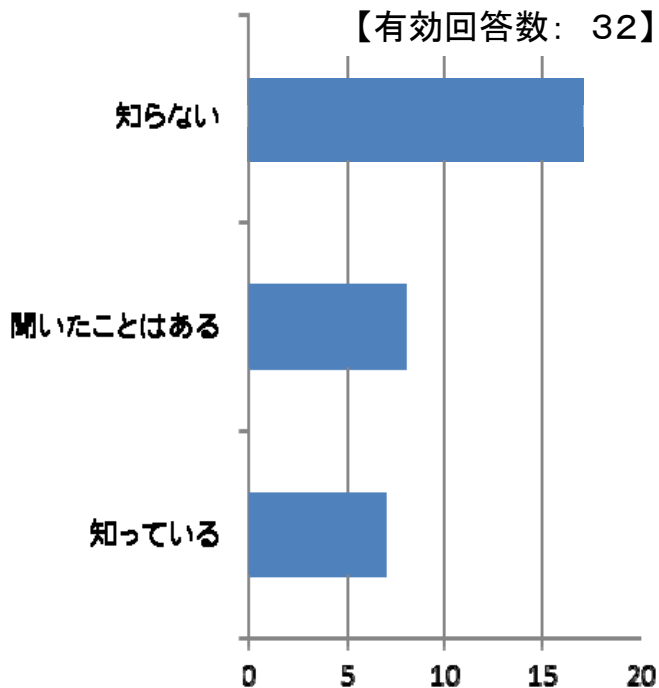


米穀の新用途への利用の新たな技術について①（生産者、米粉製造事業者、促進事業者）

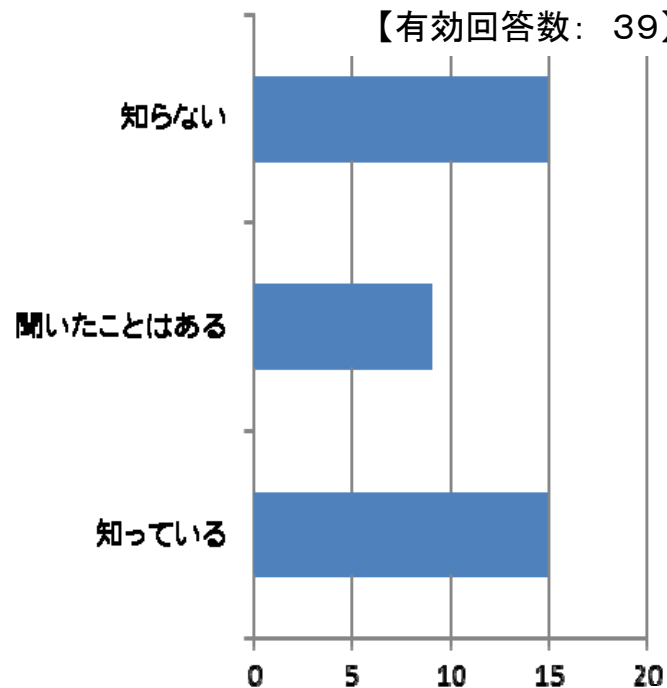
○米粉製造事業者、促進事業者の認知度は相応に高い。

【問-5】最近、米穀のパン・麺・お菓子等への利用に当たり、製粉コストを低減する観点から「粉化」を行わず米穀を製品化する技術等も開発されてきていますが、このような技術をご存知ですか。

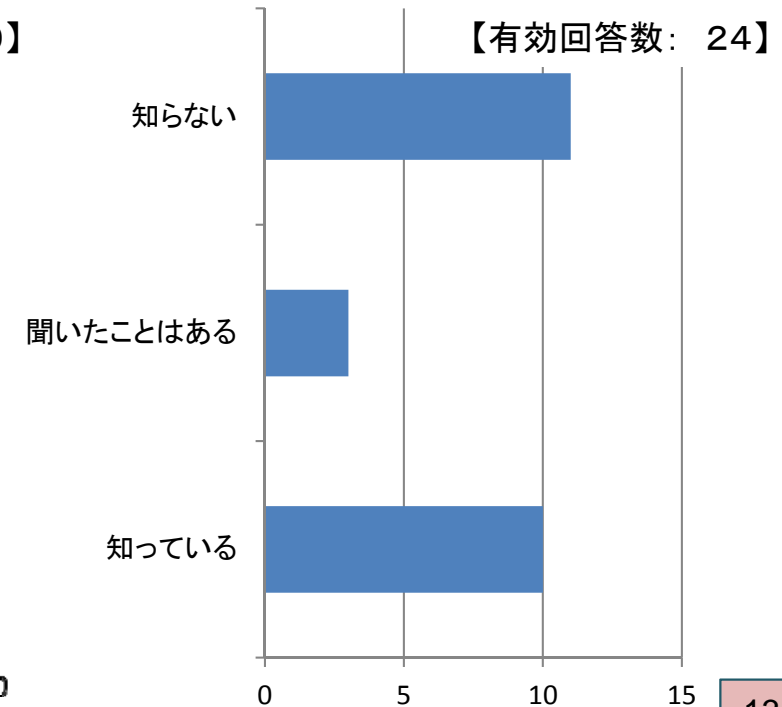
【生産者】



【米粉製造事業者】



【促進事業者】



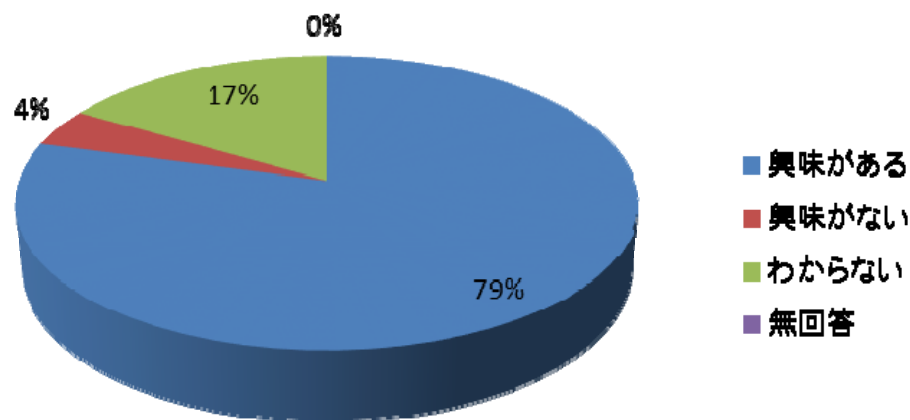
米穀の新用途への利用の新たな技術について②（米粉製造事業者、促進事業者）

- 知っている又は聞いたことがある米粉製造事業者の8割は、この技術に興味を持っている。
- 知っている又は聞いたことがある促進事業者の7割は、この技術に興味を持っている。
- なお、これら事業者のうち、直近年度又は計画最終年度の原料米(粉)使用量100トン以上(米粉製造事業者10名、促進事業者4名)の事業者にあつては、興味を持つ者の割合は、米粉製造事業者7割、促進事業者10割。

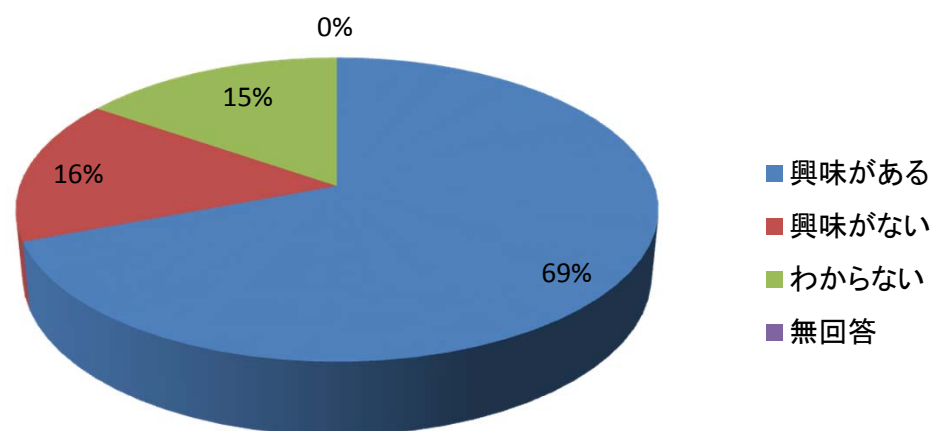
【問-5で「① 知っている」又は「② 聞いたことはある」と回答された製造事業者・促進事業者の方にお聞きします。】

【問-7】 それらの新技術に興味がありますか。

【米粉製造事業者】



【促進事業者】



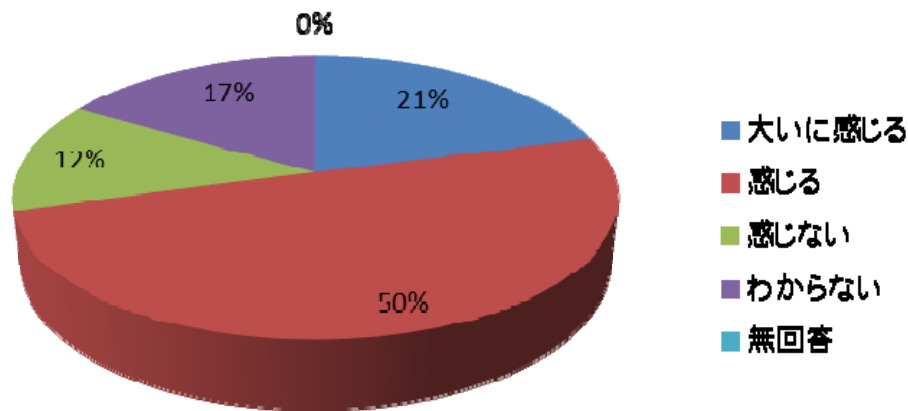
米穀の新用途への利用の新たな技術について③（米粉製造事業者、促進事業者）

- 知っている又は聞いたことがある米粉製造事業者の7割、促進事業者の7割が、この技術に米粉利用拡大の可能性を感じている。
- なお、これら事業者のうち、直近年度又は計画最終年度の原料米(粉)使用量100トン以上の事業者にあっては、可能性を大いに感じる者の割合は米粉製造事業者2割、促進事業者5割、可能性を感じる者の割合は米粉製造事業者4割、促進事業者2.5割。

【同じく問-5で「①知っている」又は「②聞いたことはある」と回答された製造事業者・促進事業者の方にお聞きします。】

【問-8】 それらの新技術には、米穀の新用途への利用拡大の可能性を感じますか。

【米粉製造事業者】



【促進事業者】

